

「かわ」と「まち」の特性

『かわ』の特性

古くから今日まで地域の暮らしと発展を支え続けてきた
(農業利水、筏流し、保津川開削、舟運)

度重なる水害との戦いの歴史の上に今日がある
(内膳堤防、日吉ダム、河川改修)

良好な水質とアユモドキに代表される豊かな自然環境を有する
(多種多様な動植物)

まちなかの貴重なオープンスペースとして、様々な河川利用が行われている
(保津川下り、運動公園、花火大会、地域のイベント、カヌー等々)

『まち』の特性

京阪神に近く、快適で暮らし安き住宅都市の魅力

保津川沿川は広大な農地が広がる田園都市の魅力

城下町としての風情を残し、多くの歴史的資源を有する歴史文化都市の魅力

新しいまちづくり等の魅力
(駅北地区区画整理事業、水端農園プラン、JR山陰本線複線化)

かわまちづくりの目標

目標1：『かわとまちを“むすぶ”かわまちづくり』

桂川は「保津川」という呼び名で親しまれる一方で、これまで幾たびとなく氾濫を繰り返すなど、沿川の人々の暮らしと深く関わり続けてきたところであるが、治水対策やまちづくりが進展してきた今、改めてかわとまちのより良い関わりを結んでいくための「かわまちづくり」をすすめる。

目標2：『かわの魅力を活かしてまちが“にぎわう”かわまちづくり』

保津川の流れる亀岡地域は京阪神地域からのアクセスに優れるとともに水と緑の豊かな自然や、湯ノ花温泉、トロッコ列車、保津川下りをはじめとする多くの観光資源があり、訪れる人々も年間220万人にのぼっている。これらの資源と連携しつつ、川を活かしたさらなるまちの魅力の創出を図り、にぎわいのある「かわまちづくり」を進める。

目標3：『かわの自然、まちの歴史と文化に“ふれあう”かわまちづくり』

保津川は、古くから沿川の田畑を潤し、保津峡開削によって多くの物資を丹波から京都に運ぶ重要な役割を担ってきた。今日では、沿川の広大な農地への用水の供給とともに、都市の中の貴重な水と緑の自然空間として、また、多くの生き物の生息環境として重要な役割を果たしている。このような保津川の恵まれた自然や、沿川の優れた歴史文化にふれあうことのできる「かわまちづくり」を進める。

目標1：かわとまちを“むすぶ”かわまちづくり

【整備方針】

かわとまちの接点の一体的整備

かわとまちをむすぶネットワークの形成

川の楽しさ、恐ろしさを伝える情報の発信

考えられる
具体的な
内容の(案)

駅北区画整理事業との連携

曾我谷川の一体的整備
亀岡の新しい玄関にふさわしい景観の形成・土地利用誘導

保津町まちづくりプランとの連携

水辺公園の整備(高水敷の活用)

支川を活用した散策路の整備

雑水川の散策路整備
(亀山城址・南郷池 文化資料館 保津川)
年谷川の松並木道「野橋立」
西川の散策路(JR馬堀駅 保津川)
鶴の川散策路(トロッコ亀岡駅 山陰古道)

タイムリーな情報の発信

HP、広報誌などによるかわとまちの情報発信
河川電光情報板の設置

防災意識の啓発

まちごとハザードマップの整備(実績及び想定洪水標の設置等)
防災パネル展の開催等

イメージ
(案)

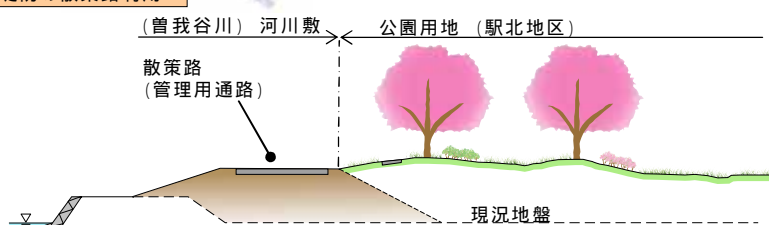
駅北地区区画整理事業と曾我谷川の一体的整備

堤防と公園の一体整備



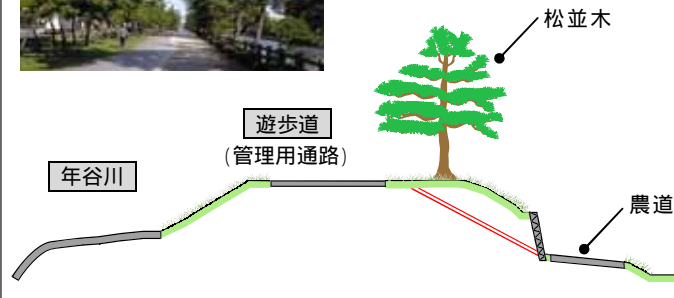
公園に隣接して水辺を感じる散策路を配置し、かわとまちの連続性を確保するとともに、土地の有効活用を図る。また、駅北地区はまちと保津川を“むすぶ”重要な地域であり、亀岡の歴史・文化・自然の魅力を感じることができるような、亀岡の新しい玄関にふさわしい景観形成・土地利用誘導を目指す。

堤防の散策路利用



年谷川の松並木道「野橋立」の復元

かつての「野橋立」を復元し、松並木道を整備



タイムリーな情報の発信

「河川電光表示板」 「まちなか情報板」 「洪水標識」

電光掲示板での情報発信
緊急時：洪水情報など
平常時：様々な地域情報



保津町まちづくりプランと連携した高水敷の利活用

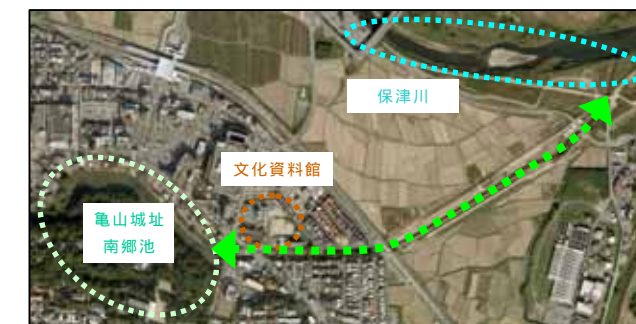
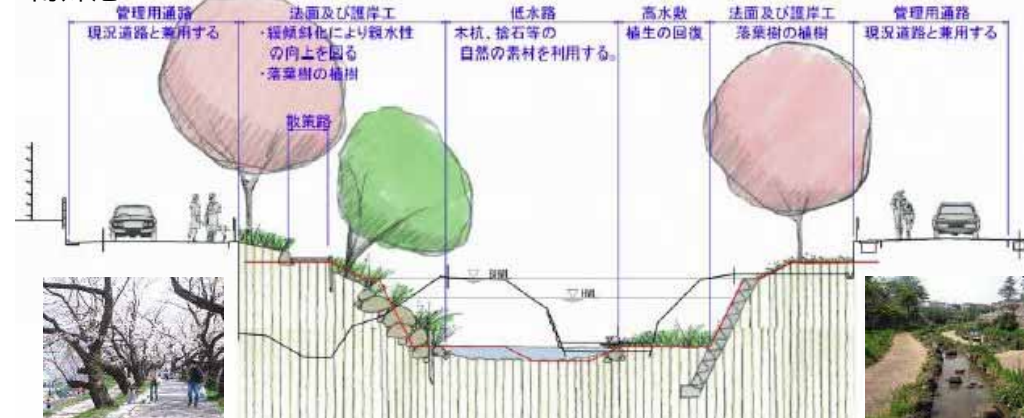
農業公園と水辺公園を連続的に整備することにより、地域で一体的に活用



雑水川の河川整備

雑水川改修にあたり、多様な生物の生息環境に配慮した整備を行うとともに、南郷池から保津川を水と緑の散策路でつなぐ

<南郷池～JR>



亀山城址・南郷池 文化資料館 保津川